



認定看護師教育課程 1回生が修了しました



認定看護師教育課程1回生を送り出して

本学では、平成23年6月から認定看護師教育課程の「皮膚・排泄ケア」と「感染管理」の2分野が開講されました。この2分野は、事前の県内の調査でニーズが高かった分野です。大学組織においては、看護実践国際研究センターの下位組織として位置付けられました。開講にあたり、2分野の認定資格を有する専任教員や実習病院の確保、会場の振り分けなど、多くの課題がありましたが、皆様の支援を得て短期間にクリアすることができました。「皮膚・排泄ケア」は19名、「感染管理」は20名の受講生を迎えて6月にスタートし、1月にすべてを修了しました。この間、受講生たちは専門性の高い講義や実習で、悩んだり落ち込んだりしたこともありましたが、様々な困難に打ち勝ち、専門職者として自信を深めたようです。37名が無事全課程を修了し、日本看護協会の最終審査を受ける段階に進むことができました。最終審査に合格し、各所属施設で活躍することが、彼らの新たな出発となります。認定看護師教育課程部門一同、彼らの活躍に期待しております。

認定看護師教育課程部門長 白鳥さつき



サンフランシスコ看護海外研修報告

荻原香瑞誉さん

(大学院看護学研究科博士前期課程2年生)

2012年3月1日～6日まで、看護海外研修に参加しました。この研修の1番の目玉はUSF、UCSFにおいての研究テーマに関連したプレゼンテーションです。私は、日本の社会情勢や保険医療システムの違いなどの紹介を含め、「急性期病院の退院支援」についての内容を発表してきました。参加者の先生方からは質問や意見を多く頂き、今後研究を進めるにあたりとても参考になりました。また他にも、講義や演習への参加、医療施設の見学など充実した研修内容で、米国の看護教育、医療や社会情勢について学ぶよい機会となりました。



Anne J. Davis先生、南裕子先生を囲んで
(左：荻原さん、前列右：上森さん)

上森友記子さん

(大学院看護学研究科博士前期課程2年生)

研修はUSFでのオリエンテーションから始まり、小児科のシミュレーションや、心疾患・薬理学の授業見学、無料診療所Asian & Pacific Islander Wellness Centerと、映画「幸せのちから」で有名になったNurse Practitioner (NP) が運営するGlide Health Service、UCSF Children's Hospitalの施設見学をしました。また、USFとUCSFでの緊張したプレゼンテーション、The women's Programで実習するNPの学生(UCSF)のシャドーイングを各自経験しました。学生は指導教員に確認しながら、1人で診察し判断、実践していました。プレゼンテーションという貴重な経験に加え、ボランティアが一般的なことや、国による授業の違い、ドラッグに対する考え方、カーテンがない妊婦診察室など、文化の違いを知る実りある研修でした。



USFでの授業風景 (小児科のシミュレーション)

平成23年度長野県看護大学研究集会報告

今年は3月22日に開催し、県内の看護職者3名の方々もご発表下さいました。

中畑真奈美さん (まつもと医療センター松本病院)

糖尿病患者のQOL向上を目指すために、カーボカウント法をどのように利用すればよいかをテーマに2年間活動させて頂きました。研究費を頂き、カーボカウント法小冊子の作成や試験食を利用した学習会を開催しました。これは共同研究に携わらなければできなかったことで、患者様から生の声を聞くことができました。私自身も患者様と共に多くの学びを得た貴重な2年間でした。この学びを今後の看護に活かしたいと思います。



本間永子さん (諏訪赤十字病院)

この度は、共同研究ということで清水教授から専門的な視点で丁寧に指導して頂き、なんとか研究としてまとめることができましたこと、深く感謝申し上げます。仕事と研究の両立は時間的にも体力的にも大変でしたが、得られるものはとても多く、改めて学ぶことの大切さや楽しさを実感するとても良い機会となりました。



伊藤みほ子さん (下伊那赤十字訪問看護ステーション)

今回の研究は2年計画で、平成23年度長野県看護大学県内看護職者との共同研究費助成を受けて行っています。訪問看護ステーションのみで進めていくことは困難な状況があります。しかし、看護大学の先生に指導いただき計画通り進めることができ、今回中間発表することができました。また、研究で終わるのではなく、実践に活かすことができるものになったことがやりがいとなっています。



新任教職員のご紹介

今年度は12名の教職員が着任致しました。各教職員から一言いただきました。

人間基礎科学講座

英語・英米文化学分野 准教授 井村俊義 教育に学務に邁進する所存です。よろしくお願いします。

基礎看護学講座

基礎看護学分野 助教 田嶋紀子 多くの人と刺激し合って、成長していきたいと思っています。

助教 上條こずえ 先生方から感じられる教育へのこだわりを持ちたいと思います。

発達看護学講座

母性・助産看護学分野 助教 佐々木美果 皆さんとともに考えながら、成長していきたいと思っています。

小児看護学分野 助手 岡村知香 NCNの学部・大学院を卒業し戻ってきました。1年間お願いします。

成人看護学分野 教授 大石ふみ子 大阪から来て、美しい長野に感動中。専門はがん看護です。

広域看護学講座

精神看護学分野 助教 長南幸恵 心と体をつなぐケアを追究しています。よろしくお願い致します。

地域・在宅看護学分野 助手 村井ふみ 地域で働く看護職の役割について、学生の皆さんと共に学んでいきたいと思っています。

認定看護師教育課程

皮膚・排泄ケア分野 専任教員 山崎紀江 こども病院から出向で参りました。何卒宜しくお願いいたします。

感染管理分野 専任教員 折尾優美 専任教員の折尾優美と申します。よろしくお願いします。

事務局

教務・学生課 課長 宮下浩秋 新入生の皆さん。自然豊かな駒ヶ根を満喫してください。露天風呂もいいですよ！

総務課 課長補佐 白上正彦 少しでも体重を減らせるよう、一生懸命汗かきかき頑張ります。

横断プロジェクト「長寿社会における地域参画型認知症トータルケアプログラムの開発と評価」について

平成24年度より本学の横断プロジェクトとして、「長寿社会における地域参画型認知症トータルケアプログラムの開発と評価」という課題を設定し、科学研究費補助金(B)を得ることができました。このプロジェクトは、駒ヶ根市老人福祉計画第5期介護保険事業計画の認知症介護ビジョンと認知症対策との整合を図りつつも、地域と研究者の接点の更なる拡大を意図して計画しました。研究目的は、認知症予防から終末期ケアに至るまでの、高齢者への個別で質の高いケアを保障する地域参画型のプログラムを作成・実施し、プログラムの妥当性および適切性を検討することです。認知症予防の生活相談と身体的機能維持、認知症の個別的な随伴症状への対応、認知症の身体合併症の予防と管理、認知症高齢者の家族介護者支援方法の確立とケア提供者への教育的支援、終末期にある認知症高齢者とその家族への支援の5つの柱によって構成されています。この研究の遂行によって、研究者と地域の医療職者・住民が協働し、地域の医療・保健・福祉に貢献できる知見が得られたらと思っています。

横断プロジェクトリーダー 渡辺みどり



リレーエッセイ



3年目を迎えて

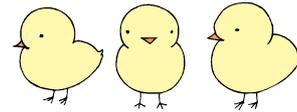
阿部 春奈さん

私が大学を卒業してから早いもので2年が過ぎ去りました。この2年の間には、本当に様々なことがありました。私は、助産師として病院に就職しましたが、配属先は産婦人科でも小児科でもなく、成人病棟でした。最初は、助産師なのに、せっかく勉強してきたのに、と思っていましたが、働いていくうちに、今は助産の基本にもなる看護をしっかり勉強しようと思えるようになりました。成人病棟では、産婦人科では実施の機会が少ない看護の基本手技を身につけることができました。また、患者さんが病気を抱えながら退院するためにはどうしたらよいのか、先輩と相談しながら準備を進めることもできました。担当患者さんが亡くなってしまったときは、とても悲しくて、退院準備を泣きながら行うこともありました。2年間という短い期間でしたが、本当にたくさんの経験を得ることができたと思います。

そして今、私は念願の産婦人科病棟で助産師として働いています。再び新人となり、毎日覚えなければならないことばかりで目が回りそうになることもあります。とても充実した日々を過ごしています。

就職して3年目となりましたが、今までの経験を糧に、初心を忘れず、これからも妊産婦さんや患者さん、その周囲の人たちが笑顔になれるような看護・助産ケアを目指して頑張っていきたいと思います。

プロフィール 平成22年3月本学卒業 長野赤十字病院助産師



聴こえる？

中林 明子さん

スピッツの「楓」という曲は身にしみます…。さて、本学の教員に着任して早くも2年目となりました。卒業時には、まさか自分が教員としてこの大学に戻ってくるとは夢にも思いませんでした。現場の1スタッフとして、ひたすらその時自分自身がやるべき事に向き合い続ける事を積み上げてきましたら、結果様々な職務経験をする機会に恵まれました。その間、年齢性別職業も様々な方に出会い、様々な価値観に気付かされ、そのひとつひとつに感銘を受ける内に、自分自身はとてもグレーな感覚の人間になっていました。必ずしも白黒つかない感覚は、自分にとっては過ごしやすく、「それもそうだなあ」と思いながら声に耳を傾けております。そう思う事で、自分自身がとても楽になる事があります。きっと、そんな風にさせてくれたのは、今まで自分と真摯に向き合ってくれた様々な人達なのだと思います。真剣に語ってくれるからこそ、気持ちに響き、そんな方の数だけ「こんな考えもある」というストックが増えていったのだと思います。学生さんに、今お伝えしたいことと言えば「人の話を良く聞いてね」ということでしょうか。「何の意味があるのかなあ？」と思う時もあるかと思いますが、良く聞いて、大事な言葉をちゃんとキャッチして下さい。後々きっと助けしてくれると思います。学生さんの言葉も、時に私を助けてくれてますよ。皆様本当にありがとう。この企画はリレーエッセイですが、例えるなら毎日は借り物競争かなあ？なんて、無理やりまとめてみたりして。みんなの力を借りて、それぞれの望むところへ、ゴール！

プロフィール 本学卒業後、諏訪地域の総合病院に就職。内科病棟、整形外科病棟看護師として勤務の後、病院併設のドック・健診センターにて保健師として勤務。その後市役所臨時保健師を務め、平成23年4月より本学地域・在宅看護学分野助手。





卒業生・修了生キャリア形成支援部門ができました！

長野県看護大学は、平成7年に開学して以来、平成22年度までに累計で学部1,117名、大学院119名の卒業生・修了生がでており、日本だけでなく海外でも活躍されています。卒業生・修了生からの相談には、これまで必要に応じて大学の教職員が対応していました。

この度、卒業生・修了生にとっての長野県看護大学の在り方を教職員で話し合い、看護職としてのキャリア形成支援を一層充実させるべく、看護実践国際研究センターに新しい部門を設置しました。同窓生・修了生の皆様、これを機会に大学ホームページをご覧ください。また、いろいろな企画を準備していますので、ぜひご参加いただきたいと思います。

<卒業生・修了生キャリア形成支援部門の活動目標>平成24年5月

看護実践の基盤となる看護学は、看護実践体験を通して研鑽をかさね、生涯にわたって専門性を探究する学問である。本学で看護学を修めた卒業生・修了生が、その後も実践をとおして大学との交流を継続できるよう、「魅力的な基地」づくりを目指す。さらに、卒業生・修了生の新任期における職場定着や看護職としてのキャリア形成支援に取り組み、大学としての地域貢献の役割を果たしていく。

卒業生・修了生キャリア形成支援部門長 安田貴恵子



サンフランシスコからの風

柿沼佑果さん



～第5回 Think globally and act locally - グローバルに考えローカルに行動する～

“think globally and act locally”を初めて聞いたのは、私が長野県看護大学在学中、当時大学専任でおられた、アンデービス先生の看護倫理の授業でした。アン先生の看護倫理は“看護とはなにか？”を学生に問う素晴らしい機会であったと共に、私にアメリカのナースプラクティショナー(NP)の存在を教え、現職のUCSFで働きたいと動機付けた授業でした。また、授業の中で先生は、ナイチンゲールが日本に訪問、講演した際のお話をしてくださいました。日本のある学生さんが「将来インドや発展途上国で貧しい人々を助けたいが、どのような道があるのか？」とナイチンゲールに聞くと、彼女は「日本でも多くの方が、インドとは違うレベルで、困っている。日本人のあなた達しか分からない問題や、解決できない問題があるのだから、それに目を向けて、日本のためになってください。」と答えたそうです。

私はこのアン先生の話聞いて「世界を見る広い視野とそれを自分の地域に生かすこと」の大切さ学びました。その他多くの授業、先生の刺激を受け、在学中から、アメリカでは地位が確立しているNPの仕事や学んだり、将来的にはNPの資格をとり、こちらのいい部分を日本の看護底上げ、地域医療に貢献できたらと思ってきました。日本は今、高齢化、農村部では過疎化が進み、医療が十分に行き届かない現状のなかで、これからNPの需要や、地域に根ざした看護師の必要性がさらに高まると考えています。

長野県看護大学の素晴らしいところは、経験豊かで学生との繋がりを重視する教職員、保健師資格が取れるため地域看護を含め、実習・研究・学生のサークル等を通じ地域との繋がりが強く、看護には欠かせない地域に根付いた貴重な経験ができること。そして、世界に目を向け、多くの文化を理解するという意味では、「多文化共生看護学」、「国際看護学」を通して大きな目線を養うこともできます。

駒ヶ根という美しく、地域の繋がりが強い地、多彩なカリキュラムと素晴らしい教職員の元で看護を学び、多くの友人に出会えたことは、全て今のSFでの看護に繋がっており、誇りに思っています。



プロフィール 2004年長野県看護大学卒業後、虎の門病院 脳外科に勤務。東京にて小児専門クリニックに勤務後、2008年にアメリカ、サンフランシスコに移住。カリフォルニア州サンフランシスコ大学、小児病院 (UCSF Benioff Children's Hospital)の急性内外科病棟にアシスタントナースとして就職。2010年カリフォルニア州看護師試験に合格後、同病棟にて正看護師 (RN) として勤務中。

平成23年度 卒業式・修了式

3月10日に卒業式・修了式を行い、学部生80名、編入生8名、大学院生博士前期課程11名、博士後期課程1名が卒業・修了しました。卒業生及び修了生にメッセージをいただきました。



吉澤 歩さん

(駒ヶ根市役所、平成24年3月看護学部卒業)

入学当初は長く感じた4年間も、気がつくとなあという間に終わってしまい、「まだ大学にいたい」という思いが強いです。毎日の勉強に、試験に、実習に…辛く、大変なことも沢山ありましたが、その分4年間一緒に過ごしてきた仲間は私の中でとても大切なものになりました。この思い出を糧に、社会人生活への一歩を踏み出そうと思います。

小林由美子さん

(こころの医療センター駒ヶ根、平成24年3月大学院博士前期課程修了)

緑樹の候、在院中は大変お世話になりました。今振り返りますと、短いような長いような不思議な3年間でした。私は高年齢+仕事持ちと、よくまあ乗り切れたものだと思います。これもひとえに先生方始め皆様のお陰と感謝しております。大学院で得たこの経験を、微力ながら生かしていけたらと思う今日この頃です。

平成23年度 卒業生の進路状況

平成23年度の学部卒業生の進路状況については、以下の特徴がみられました。

- ①県内の医療機関等への就職者数は47名(56.6%)であり、昨年度に比較すると県内への就職比率が下降したが、近年の傾向として県内就職率は高い水準を維持している。
- ②県内外の都市部の大規模病院や大学病院等への就職を希望する者が、昨年度も比較的多く見られた。
- ③県内市町村の保健師は4名が採用されたが、県外と合わせても行政保健師は6名であり昨年度に比べて減少している。養護教諭については、義務・高校とも採用者がなかった。

学部卒業生の具体的な進路状況は、以下の通りです。(5月1日現在)

(1) 進路の概況

区 分 職 種 等	就 職					進 学	家 居 そ の 他	合 計	
	看護師	保健師	助産師	教 員	小 計				
地 域	県 内	33	12	2	0	47	0	1	48
	県 外	30	3	4	0	37	1	2	40
計	63	15	6	0	84	1	3	88	

(2) 主な就職先

<長野県内>

飯田市立病院 飯田病院 伊那市 伊那中央病院 岡谷市 駒ヶ根市 佐久総合病院 信濃医療福祉センター 篠ノ井総合病院 諏訪赤十字病院 長野県立こども病院 富士見高原病院 松本協立病院 松本市

<長野県外>

聖隷三方原病院 名古屋市病院局 日進市 日本赤十字社医療センター 福井赤十字病院 三島市
就職支援員 唐澤 敏

平成24年度 入学式・オリエンテーション合宿



入学式での阿保順子学長の挨拶

4月4日に入学式を行い、学部生83名、編入生5名、大学院生博士前期課程8名、博士後期課程5名を迎えました。新入生からのメッセージをお伝えします。

川崎 萌さん(看護学部1年生)

私は将来助産師として働きたいと思い、県外にあるこの看護大学を志望しました。この大学は看護師、保健師、助産師の資格を取ることができ、また、他の大学に比べ教員数も多く、看護を学ぶにはとても良い貴重な大学です!! 一人暮らしが不安な人も多いと思いますが、一年次は寮で友達がみんなすぐ近くに住んでいるので、楽しく大学生活が送れますよ♪



金田 健さん (看護学部編入1年生)

僕は専門学校を卒業し、すぐ長野県看護大学に編入しました。編入した動機は、今後キャリアアップを考えた時、学士を持っていることで視野が広がるのではないかと考え、入学しました。入学して、慣れない大学生活に戸惑う事もありましたが、優しく話しかけてくれる学生が多く、今では勉強も頑張りつつ、大学生をエンジョイしています。

佐藤清湖さん

(大学院看護学研究科博士前期課程1年生)

大学院生活が始まって早2か月が過ぎ、授業内容も本格的になってきました。研究方法にまつわる専門用語や読み慣れない英語の文献などに一人ではめげてしまいそうになりますが、同じ修士課程1年の仲間と励ましあい、時には協力しながら日々多くの学びを得ています。授業の中では同じ看護職者として学生同士やご教授下さる先生方と語り合える楽しさも感じています。豊かな自然に囲まれ、充実した設備のあるこの大学の大学院で学べることを感謝しております。



1年生と編入1年生は、たつのパークホテルでオリエンテーション合宿に参加し、温泉も楽しみました。



平成24年度前期の行事

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 4 / 4 (水) 入学式 | 5 / 1 (火) 創立記念日 |
| 4 / 5 (木) ~ 6 (金) ガイダンス・健康診断 | 8 / 4 (土) オープンキャンパス |
| 4 / 9 (月) ~ 10 (火) オリエンテーション合宿 | 9 / 28 (金) キャリアガイダンス |



第17回 鈴風祭



鈴風祭実行委員会の皆さん

鈴風祭 17th

NOW or NEVER

2012年 9月22日(土)10:00~17:00

23日(日)10:00~16:00

日本ルーラルナーシング学会 第7回学術集会

平成24年9月15日(土)~16日(日)長野県看護大学に於いて、日本ルーラルナーシング学会第7回学術集会を開催致します。日本ルーラルナーシング学会は、へき地や離島などの地域に特化した看護に焦点をあて、教育研究者と実践現場の看護職がともに学び合い、保健医療福祉の向上に向けて活動しています。第7回学術集会では、「里山の“暮らしといのち”を支える看護」という大会テーマを掲げ、プログラムを企画しました。行政、訪問看護、診療所、病院という領域の枠を越えて語り合うことのできる場を創りたいと準備しています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第7回学術集会大会長 安田貴恵子

平成24年9月15日(土) 長野県看護大学	平成24年9月16日(日) エクスカーション
<ul style="list-style-type: none"> ○講演「山間地域における認知症ケアと看とりーグループホームかあちゃん家の取り組みー」 戸谷美知子氏 (長野市鬼無里グループホームかあちゃん家 管理者) ○シンポジウム 「里山の“暮らしといのち”を支える看護活動」 ○研究発表(示説) ○交流集会 「山間地域における生活習慣病予防・介護予防」 「へき地の保健医療を担う看護職の確保と支援」 「里山における遠隔医療/ケアの活用」 ○懇親会 駒ヶ根名物ソースかつ丼、地ビール等、地元の食材を取り揃え、多くの皆様のご参加をお待ちしております。 	<ul style="list-style-type: none"> 【南信州の自然と暮らし、歴史の探訪】 9:00 長野県看護大学出発 ○名勝「光前寺」本堂参拝、庭園散策 ○ふるさとの家セミナーハウス「もりの塾」 ミーティング:住民の支え合いと地域福祉活動(仮題) 講師 片桐美登氏 (駒ヶ根市社会福祉協議会 事務局次長) ○地物食材たっぷりの体にやさしい昼食 「ナチュラルバイキングレストラン菜々ちゃん」 (駒ヶ根シルクミュージアム内) 13:15頃 解散予定 (駒ヶ根駅、高速バス停留所、宿泊施設等) ※ご希望があれば駒ヶ根高原までご案内します。

問い合わせ先 第7回学術集会事務局(長野県看護大学内) E-mail: jasrun2012@nagano-nurs.ac.jp

参加費用・申し込み方法の詳細は日本ルーラルナーシング学会ホームページをご覧ください。

<http://www.jasrun.org/>



本学は、(財)大学基準協会による大学評価の結果、大学基準に適合していると認定されました。

(認定期間:平成24年4月1日から平成31年3月31日)

長野県看護大学学報 No.34(平成24年7月)

編集・発行 / 長野県看護大学広報・交流委員会

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694

TEL 0265-81-5100 <http://www.nagano-nurs.ac.jp/>